

文化とアイデンティティ—ドイツの「記憶の文化」を中心に—

教授 広 沢 絵里子

1. 研究内容

「文化」や「アイデンティティ」は、国や民族などの集団、あるいは個人が、みずからの過去をどう理解・解釈するか、という問題と切っても切り離せません。このゼミでは、1989年のベルリンの壁崩壊後、東西ドイツの統一という大変動を経験したドイツを研究対象とします。とりわけ、現代ドイツにおける「記憶（想起）の文化」という潮流に着目し、歴史・教育・芸術・文学などの多様な分野における「過去の記憶（想起）」のテーマを考察します。ここでは、第二次世界大戦の記憶をどのように保存し、伝承するかという問題が、政治や歴史だけでなく、文化や芸術の問題としても議論されていることが分かるでしょう。履修者はゼミ活動を通じて自分なりの個人研究テーマを見出し、4年次で卒業論文をまとめることが目標となりますが、記憶・文化・アイデンティティに関わることであれば、対象はドイツに限定されません。また、このゼミでは、博物館や美術館を訪問し、多様な文化への視野を広げる機会も持ちたいと考えています。

2. ゼミの進め方

《2年次》

春学期：図書や映像教材をもとに口頭発表やディスカッションを行います。広くドイツの社会や文化に関する理解を深めてゆきます。

秋学期：ドイツにおける「記憶の文化」に関連した図書に基づき、グループでのディスカッションを行い、共同でレポートを書くほか、参加者各自の個人研究発表を行います。

《3年次》

春学期：共通図書を用いた口頭発表とディスカッションを中心に活動します。

秋学期：夏休み中の個人研究をもとに、口頭発表、レポート執筆を行います。

《4年次》

春学期：これまでの個人研究をどのように発展させるか、ゼミにおける発表を通じて検討します。

秋学期：卒業論文の執筆を進めながら、随時、授業時に報告・発表を行います。

※合宿は行いませんが、1年に1～2回、美術館訪問等を行います。

3. 教材

熊谷徹『ドイツは過去とどう向き合ってきたか』高文研、2007年

岡裕人『忘却に抵抗するドイツ：歴史教育から「記憶の文化」へ』大月書店、2012年

（その他授業中に指示する。）

4. 成績評価の方法

積極的な授業参加、ブックレポート・期末レポート等の課題提出、研究活動への取り組み姿勢と成果。（※授業への出席を、修了までの3年間を通じて重視する点、特に注意してください。）

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

自分とは異なる意見や立場を尊重した上で、積極的に議論できる方の参加を望みます。他の参加者の発表から学ぶことが多いので、授業への出席はとても重要です。上記3.の教材を実際に見て入室を検討するのも良いでしょう。海外留学も奨励します。交換留学生が参加することがあります。